

花やん・オ・君・モリ博士・フツ博士のかかたドド立ててく5

国立市立国立第七小学校

平成29年10月6日 NO.55 (455)



5年生 「きのう、^{いねか}稲刈りに行ってきました。」

5年生 「たくさんの^{いね}稲をカマで、ザクッザクッとがんばって刈ってきました。」

5年生 「どのくらいの^{ひろ}広さの^た田んぼなんだろう。」

5年生 「どのくらいのお米がとれるんだろう？」

5年生 「国立市の^{くにたちし}農業委員のみなさん！^{おし}教えてください。」

農業委員 「まず、^た田んぼの^{ひろ}広さだけど、^{いったんさんせ}だいたい一反三畝くらいだね。」

5年生 「え！^{なん}いったんさんせ・・・？何のことですか。」

農業委員 「^{むかし}昔の^{ひろ}広さ・^{めんせき}面積の^{たんい}単位で、^{いま}今でも^{のうぎょう}農業を^{おこな}行っている人がよく^{ひと}使うものだよ。

^{いったん}ただいだけど、^{いっせ}一反とは10アールくらいで、^{いっせ}一畝とは1アールくらいだね。

つまり、この『^{くにたちさと}国立里の家』の^{まえ}前の^た田んぼは、^{やく}約13アールくらいだね。よう

するに、1アールが^{へいほう}100平方メートルなので、13アールというのは、

^{へいほう}1300平方メートルだね。」

5年生 「へえー。^{むかし}昔の^{めんせき}面積の^{たんい}単位というのがあるんですね。とても^{べんきょう}勉強になりました。」

5年生 「つぎに、^{ことし}今年のお米の^{こめ}できは^いどうでしたか。」

農業委員 「^{そだ}とってもよく育ったけど、^{たいふう}台風があっただろう。そのために^{いね}稲が^{すこ}少し^{たお}倒れて

^かしまつてね、^かちょっと刈りづらいかもしれないね。」



5年生 「大丈夫です。ぼくたち一生懸命に刈ります。ところで、どのくらいのお米がとれるのですか。」

農業委員 「そうだね。約500キログラムくらいは収穫できると思うね。」

5年生 「へえー。そんなにたくさんとれるんですか。すごいですね。」

農業委員 「このお米の品種は、『絹ひかり』というもので、とっても美味しいよ。」

5年生 「私たちも食べたいですね。」

農業委員 「もちろん食べられるよ。みんなで植えた稲だもんね。」

5年生 「6月12日に植えた苗が、こんなに見事に大きくなってうれしいです。」

5年生 「でも、ぼくたちは、植えただけだよ。」

5年生 「お米は勝手に大きくなったのかな。これまで何もしないでよかったのかな。」

農業委員 「よく気がついてくれてえらいね。このお米は夏の間、いろいろな世話をたくさんしてきたんだよ。」

5年生 「どんな世話をしてくれたんですか。」

農業委員 「まず、水の管理をしてきたんだ。水がたくさんありすぎてもいけないし、もちろん水が少なすぎたら、枯れてダメになってしまうからね。」

5年生 「ほかにもまだあるのですか。」

農業委員 「一番たいへんだったのは、草とりだったね。夏の暑い日もおじさんたちが集まって、田んぼのまわりの畦や、田んぼの中の雑草も取ったんだ。」

5年生 「暑い中、ほんとうにありがとうございました。」

農業委員 「今度お米を精米して、国立七小に届けるからね。楽しみにしていてね。」

5年生 「ありがとうございます。みんなでおにぎりにして食べまーす。楽しみでーす。」